

参考資料

■作品紹介

- 「ぎぶ あんど ていく」
介護ボランティアの意義を模索しながら高齢者との関わり方に悩む女子大生を描く
- 「オーブラザー」
強制退去を余儀なくされた3人のホームレスと彼らの担当者である市役所員との心の交流を描く
- 「ろくでなしに送る歌」
孤独死した老人を目の当たりにし、無縁社会の実状に疑問を抱く芸大生の葛藤を描く

■Encore Inflight Limited(香港) CEO Jovita Toh 氏のコメント

Encore Inflight was created to bring quality content created with passion and vision to passengers. While these content may win awards at festivals, they sometimes fail to reach theatres. Encore searches for such beautifully made movies and bring it to the world through the airlines. When Encore met with Ritsumeikan University, it was clear that the school encourages creativity, promotes passion and facilitated the expressions for students by helping them produce a movie. To support the school and the student who will be tomorrow's filmmakers, Encore was honoured to take on the inflight distribution for The Life and Times of Randen Town. Encore will continue to put 100% of their marketing efforts to reaching more airlines so that the work of these students can be enjoyed.

(和訳)

「当社、Encore Inflight は飛行機の搭乗者に対し、ハイ・クオリティな映画をお届けするというビジョンのもと設立されました。そのような中、これまで多くの映画が数々の映画祭などで賞を受賞するにも関わらず劇場にかけられることなく埋もれてしまうという状況に遭遇してきました。アンコールはそういった素晴らしい映画を旅客機にお届けする仕事をしています。今回立命館大学映像学部の皆さんに香港フィルムアートでお会いした際、学生たちがプロデュースした作品の販売促進活動をサポートすることで、学生の創造性を奨励し、映画に対するパッションを伝えようとする思いが伝わってきました。大学と未来のクリエイターとなる学生を、『嵐電のまち、ひと模様』を世界のインフライト映画として紹介するという形で支援できるのは本社にとっても名誉なことだと思っています。アンコールは今後も本作が世界中の航空機で上映されるよう尽力してまいります。」

■映画制作論について

映像学部の特殊講義で、2011年度に客員教授に着任した中島貞夫監督の指導のもと、映画制作のために必要な準備作業を習得、プロジェクトを実行できる人間性の育成を目的に、「映画制作のために何が必要か」をテーマに置き、特に準備段階を中心にシナリオ制作など実践的な作業を行います。講義終了後の春期休暇中に、準備を進めた映画の制作を行います。

2015年度からは、熊切和嘉監督(『私の男』モスクワ国際映画祭最優秀作品賞)が同講義の監修を継承しています。

特徴としては、受講生たちが社会に対して感じている感情を追求させてテーマを生み出している点、それを映画化する際に安易な作業ではなく徹底した調査や準備をおこなう点、さらに映画の基礎文法に沿った表現手段を意識する点などが挙げられます。